

ギニア月報(2021年10月)

主な出来事

【内政】

- 1日、CNRD ドウンブヤ大佐の暫定大統領就任式が実施された。
- 2日、ギニアの独立記念式典が開催された。
- 6日、暫定政府により、モハメド・ベアヴォギ氏が暫定政権の新首相に、アマラ・カマラ氏が大統領府事務局長に任命された。
- 25日—11月5日にかけて、暫定政府より閣僚の任命が行われた。

【外政】

- 1日、クリバリ大佐率いる CNRD 代表団が、ECOWAS 議長国であるガーナを訪問し、アクフォ＝アド・ガーナ大統領を表敬した。
- 11日、ビオ・シエラレオネ大統領がギニアを訪問し、ドウンブヤ大佐と面会した。
- 15日、ドウンブヤ大佐は、当地 ECOWAS 諸国大使及び EU 諸国大使をそれぞれ招集した。
- 15日、ベアヴォギ暫定政権首相は、ガーナにてアクフォ＝アド・ガーナ大統領を、コートジボワールにてウワタラ・コートジボワール大統領を表敬し、移行期間の延長に関し再交渉した。
- 20日、エンバロ・ギニアビサウ大統領が当地に到着し、ドウンブヤ大佐と面談した。
- 28日、ブルーECOWAS 委員長が率いる ECOWAS 代表団は、コナクリに到着し、ドウンブヤ大佐、ベアヴォギ暫定政府首相、クヤテ外務・国際協力・アフリカ統合・在外自国民大臣及びカマラ国防担当大臣他と面会し、政権移行のプロセスに関し協議した。

【経済(経済協力含む)】

- 4日、令和3年度対ギニア草の根人間の安全保障無償資金協力で採択された3案件(約3,200万円)に関する署名の交換が行われた。
- 8日、COVAX ファシリティ経由で供与されたファイザー社製新型コロナウイルスワクチン588,510回分がギニアに到着。
- 25日、CDM-Chine の従業員は、待遇改善の合意が遵守されなかったことに抗議し、ストライキを開始。

1 内政

- ・ 1日、CNRD のドウンブヤ大佐が暫定大統領に就任する式典が実施された。
- ・ 2日、ギニアの独立記念式典が開催され、ドウンブヤ大佐はスピーチ内で、国民投票での新憲法の作成、文民の首相の指名、選挙への不出馬、選挙の実施及び国際約束の遵守等に関し言及をした。
- ・ 6日、暫定政府により、モハメド・ベアヴォギ氏が暫定政権の新首相に、アマラ・カマラ氏が大統領府事務局長に任命された。

- ・ 8日、暫定政府により、25の省庁及び2つの事務局一覧が発表された。
- ・ 12日、CNRD により、元コナクリ国家憲兵隊の地域司令官のバラ・サモラ大佐が、国家憲兵隊の最高司令官及び軍事司法長官に任命された。
- ・ 12日、CNRD により、元平和維持訓練センターのサディバ・クリバリ大佐が、陸軍参謀総長に任命された。
- ・ 12-13日、CNRD により、州知事及び高等防衛顧問が任命された。
- ・ 14日、旧与党 RPG の幹部は、コンデ前大統領の拘束以来初の会合を開催し、コンデ前大統領の解放等に関し協議した模様。
- ・ 20日、暫定政府により、元税関総局の情報・統計部門部長のムサ・カマラ大佐が、税関長官に任命された。
- ・ 20日、暫定大統領令により、税関職員123名の退職が命じられた。
- ・ 21日、CNRD は、新型コロナウイルス流行に係る新たな措置として、夜間外出禁止令の撤廃等を発表した。
- ・ 21日、政変による影響で授業実施を見合わせていた初等・中等教育機関が再開した。なお、高等教育機関は11月1日に再開。
- ・ 25日—11月5日にかけて、暫定政府より閣僚の任命が行われた。
- ・ 26日の報道によると、CNRD による公的機関の銀行口座凍結により、新型コロナウイルス及び経済安定化のための特別基金の口座が凍結され、9月は銀行取引が行われなかった模様。
- ・ 29日、CORED は、政党間連合を立ち上げ、RPG、COPEG、ANAD、PEDN 及び UFR 等と協議を進めている。同政党間連合は、81議席中15議席以上を獲得できるように再交渉する模様。

2 外交

- ・ 1日、クリバリ大佐率いる CNRD 代表団が、ECOWAS 議長国であるガーナを訪問し、アクフォ＝アド・ガーナ大統領を表敬した。CNRD は ECOWAS からの制裁の軽減を要請したものの、同大統領は「6カ月の移行期間」を譲らなかった模様。
- ・ 10月1日から2022年3月31日まで開催されているドバイ万博2020にギニアが参加しており、ギニアのパビリオンでは、同国の歴史、文化、投資の機会、イノベーション及び観光資源が紹介されており、特に同国における水の役割やその管理に焦点を当てた展示がされている模様。
- ・ 2日、米務省は、ギニアの独立記念日を祝福し、ギニア国民及び国際社会とともに法秩序への回帰、グッドガバナンス等に向けて協力していく旨のコミュニケを発出した。
- ・ 2日、EU 議会は、9月16日の ECOWAS 会合での決断を支持しつつも、ギニアの政権移行を支援していく旨のコミュニケを発出した。
- ・ 11日、ビオ・シエラレオネ大統領がギニアを訪問し、ドゥンブヤ大佐と面会した。二国間協力関係及び2005年からギニア軍が占拠している二国間の国境付近にあるシエラレオネのイェンガ(Yenga)の問題に関し意見交換がなされた模様。
- ・ 15日、ドゥンブヤ大佐は、在ギニア ECOWAS 諸国大使及び同 EU 諸国大使をそれぞれ招集し、

移行期の期限が議論を呼んでいることは承知しているものの、国内の主要アクターとともに議論を重ね、国民の意思を反映した政治を行っていく旨述べた。また、コール EU 代表部大使は、前政権の悪習を批判した上で、移行期間が設定され、ロードマップが明確になることを条件に、協力に関し協議したい旨述べた。

- ・ 15日、ベアヴォギ暫定政権首相は、ガーナにてアクフォ＝アド・ガーナ大統領を、コートジボワールにてウワタラ・コートジボワール大統領を表敬し、移行期間の延長に関し再交渉をした。
- ・ 20日、エンバロ・ギニアビサウ大統領がギニアに到着し、ドゥンブヤ大佐と面会した。同暫定大統領は、自分達は権力を保持するつもりはなく、自分達の使命は国民を和解させ、国家を統合に導き、法の支配、民主化及び高潔なガバナンスを基盤とする国家の基礎を築くことである旨述べた模様。
- ・ 22日、ディアロ UFDG 党首は、ベルギーのブリュッセルで実施されたベルギー自由党の第175回議会に出席した。
- ・ 27日、ベアヴォギ暫定政権首相は、コール EU 代表部大使及び EU 各国大使と面会し、政権移行とそれに対する EU の協力等に関し、意見交換を行った。
- ・ 27日、ベアヴォギ暫定政権首相は、アルダケララ在ギニア・サウジアラビア王国大使と面会し、二国間協力及びギニア国民に対するメッカへの巡礼条件の改善等に関し、意見交換を行った。
- ・ 28日、ブルー ECOWAS 委員長率いる ECOWAS 代表団がコナクリに到着し、ドゥンブヤ大佐、ベアヴォギ暫定政権首相、クヤテ外務・国際協力・アフリカ統合・在外自国民大臣及びカマラ国防担当大臣他と面会し、政権移行の手順に関し協議した。29日に ECOWAS から発出されたコミュニケには、ECOWAS はギニアの移行政権に対し、憲法に則った秩序への回帰を強く勧め、そのための選挙実施に対する支援の用意がある旨発表した。
- ・ 31日から11月12日まで、ベアヴォギ暫定政府首相は、グラスゴーで開催された COP26に参加した。首相として初の海外出張となった。

3 経済(経済協力含む)

- ・ 4日、令和3年度対ギニア草の根人間の安全保障無償資金協力で採択された3案件(約3,200万円)に関する署名の交換が、松原大使とサコ・ギニアの子どもと女性の権利を守る会(ADDEF-Guinée)調整員、カマラ NGO 若者による開発(DEPAJE)代表及びトラオレ・ギニア赤十字社代表との間で行われた。
- ・ 4日、EU はギニア赤十字を通して、8月末にギニアで発生した集中豪雨による洪水の影響を受けた6,280世帯(43,815名)世帯に対し、13万5千ユーロのシェルター、食料援助、保健サービス、飲料水、衛生用品、トイレ、日用品等の緊急人道支援を提供した。
- ・ 8日、COVAX ファシリティ経由で供与されたファイザー社製新型コロナウイルスワクチン588,510回分がギニアに到着した。当地 UNICEF によると、今回到着したワクチンのうち、186,030回分が米による供与であり、402,489回分が COVAX ファシリティによる5回目の供与である。
- ・ 14日、テレミレ県で鉱山開発を行う中国系企業 CDM-Chine の従業員は、給与増額を求め25日

からストライキを開始する旨予告した。

- ・ 19日、キゼルボ前当地 WHO 所長は、5年間のギニアでの任期を終え、その褒賞として CNRD から国家勲章が授与された。
- ・ 25日、CDM-Chine の従業員は、同企業幹部が2021年の給与を5%増加させ、2017年以降の不当な天引きを返済する旨の合意がされたにも拘わらず、遵守されなかったことに抗議し、ストライキを開始した。